

書評

見て・触って・聞いて 読む ～天文絵本『ホシオくん天文台へゆく』～

藤原晴美（元盲学校教員）

1. 内容

星を見るのが大好きなホシオくんが、丘の上の天文台で迎えてくれたウチュウさんの説明を聞きながら、大きな望遠鏡でいろいろな星を見るお話です。惑星や星雲などをたくさん見せてもらったの帰り道、ホシオくんは自分も大きな宇宙の中にいることに気づきます。

2. マルチモーダル図書として

この絵本は、小学校低学年向けの天文学の入門書で、今年3月、活字版、点字版、音声版という3形態で出版された。同じタイトル・内容で、それを複数種の文字や音声で著した本を、私たちは「マルチモーダル図書」と呼んでいる。

点訳・音訳（朗読）された天文学の本、中でも子どもたちにも読みやすい入門書は極めて少ないので、このような絵本が出版されてとても嬉しい。

2.1 活字版

活字版は大きな文字使いで、漢字にルビが振ってある。文字が小さくて読みにくかったり、漢字をあまり知らなかったりなどで、日頃読書に不便さを感じている人たち（子どもたちにも）も、できるだけ読みやすくなるように工夫されている。

2.2 点字版

点字版では、ホシオくん（図1）やウチュウさんのイラスト、月、土星、リング状星雲などの写真（図2）が、手や指で触って読みとれるようになっている（図3）。これらは点

字用のグラフィック（作図・印刷）ソフトウェアを使い、大中小の3種類の凸点を組み合わせ合わせて描かれている。視覚障害者以外の人にも、興味を持って見てもらえると思う。



図1 ホシオくんの点図原稿

2.3 音声版

音声版（オーディオブック、MP3形式）のCDは、CDプレイヤーやパソコンを利用して聞くので、文字を読んだり、絵や写真を見たりしなくてもよい。二人の声の出演者、高山久美子さんと松本福太郎さんが名演技で進めて行くラジオドラマと言ってもいいだろう。言葉 ホシオくんとウチュウさんの会話を聞いているだけで、惑星の表面の模様や色、星雲の形などを思い浮かべることができる。

3. まとめ

視覚で読む活字、触覚で読む点字、聴覚で読む音声と、それぞれの特性を生かして製作されたので、内容は同じで、表現のニュア

スが微妙に違った 3 モードの本が生まれた。音声版 CD を聞きながら点字版を見る、活字版と点字版を見比べるなど、いろいろな組み合わせの読書スタイルが楽しめそうだ。

私はこの絵本を紹介するに当たって、「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」といった言葉を、意識して使わないことにした。なぜなら、健常者だけが読者ではないし、障害者だけが読者ではない。天文学に限らず、全てのジャンルの本がこのホシオくんの絵本のように、マルチモーダルの本として出版されるべきだと考えるからである。そして、いつかそれが当たり前になって、「マルチモーダル図書」が死語になる日が来てほしいとも思っている。

4. 購入に際して

○発行所など

『ホシオくん天文台へゆく』

高橋 淳・嶺重 慎・坂井 治／著

2012 年 3 月出版

【活字版】

AB 判 58 ページ

定価 945 円（税込）

ISBN 978-4-902666-27-4

発行・販売 有限会社 読書工房

<http://www.d-kobo.jp/>

【点字版・音声版】

定価 点字版 3,000 円

音声版 CD 1,050 円（税込）

発行・販売 社会福祉法人 桜雲会

<http://homepage2.nifty.com/ounkai/>

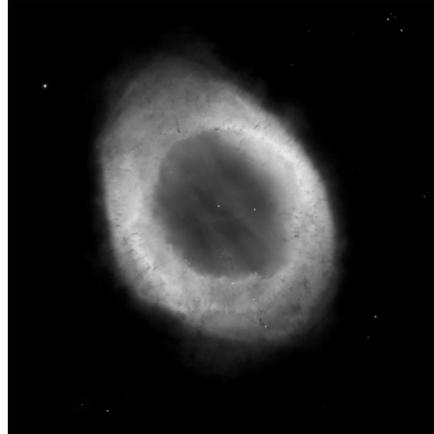


図 2 リング状星雲の写真 (©NASA)

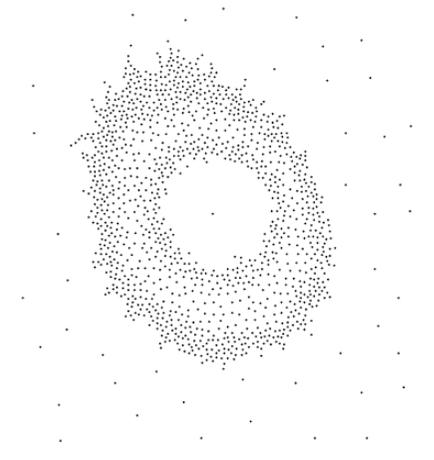


図 3 リング状星雲の点図原稿

藤原 晴美